

英米文化学会会報

第 49 号

平成 13 年 10 月 20 日版



第 19 回大会で講演する名和前会長

目次

英米文化学会第 107 回例会開催のお知らせ(発表レジュメ付き)
『英米文化』投稿希望者へのご案内
シンポジウム実行委員会からのお知らせ
事務局からのお知らせ
研究ガイド 英国公文書館の外部研究員について

英米文化学会第 107 回例会開催の お知らせ

表記の会を下記の要領で開催します。
万障お繰り合わせの上、ご出席ください。

開催年月日：平成 13 年 11 月 17 日(土) 午後 3 時
場所：日本大学理工学部 9 号館 9124 教室(12 階)

懇親会：レストラン「ワインベルク 2」
03-5259-0022(午後 6 時から)

参加費用：4000 円

忘年会もかねております。懇親会のみ



への参加も歓迎いたします。ふるってご参加ください。(開催場所の詳細は、事務局からのお知らせをご覧ください)

< 研究発表 >

1. 英字新聞リーディングの基礎—英文メディアに慣れ親しむ方法(15:05 - 15:45)
斎藤さなえ(立教大学)
司会 糸井 江美(文教大学)
2. ブロードウェーにおけるビジネスと芸術の両立(15:55 - 16:35)
茂木 崇(杏林大学)
司会 田中 健二(摂南大学)
3. 「朱門のうれひ」と『ハムレット』に関する考察(16:45 - 17:25)
志村 哲(山梨県立石和高校)
司会 佐久田 英子(拓殖大学)

研究発表レジュメ

1. 英字新聞リーディングの基礎 英文メディアに慣れ親しむ方法

斎藤さなえ(立教大学)

本発表では、英字新聞リーディングの授業における基礎的な、しかし重要なアクティビティの実際とその活用結果を報告し、今後のメディア英語教材の扱い方を検討したい。学生の基礎学力レベルを考慮に入れ、とかく敬遠しがちな英字新聞へのマイナスイメージを緩和するために、(1)短期的目標としては、半期で新聞英語の基礎的な特徴を考察し、自らの関心にねざした記事選びを通して、リーディングの習慣づけを試みる、(2)長期的目標としては、社会への掛け橋としての英字新聞の役割を会得する、というのが二つの大きな目標である。あわせて、英字新聞を教材として扱う際のリーディングの基礎的な手法を、授業の実践を紹介しながら提言する。

2. ブロードウェーにおけるビジネスと芸術の両立

茂木 崇(杏林大学)

ブロードウェーの劇場街は、良くも悪くもニューヨークという近代文明都市に生まれ、民主主義と資本主義の変遷のなかで、時に華やかに時にシニカルに活動してきた。したがって、ブロードウェーをどう評価するかという問いは、ニューヨークという都市文明を如何に位置づけるかという問題から導かれる。本発表では、ブロードウェーの舞台製作の流れを、法的・経済的側面から分析し、それがシステムとしてどのように成立しているのかを検証する。具体的には、プロデューサー、ロングラン方式、組合、マーケティング、NPOの活用などについて言及する予定である。とくに本発表では、リスクの多いベンチャー・ビジネスとあってよい演劇において、資金を確保する有力な方式である「リミティッド・パートナーシップ」について詳説する。

3. 「朱門のうれひ」と『ハムレット』に関する考察

志村 哲(山梨県立石和高校)

島崎藤村の『朱門のうれひ』は、七齣十二景から構成される一劇詩である。この作品は構想の上で『ハムレット』との関係が非常に強く、その影響を色濃く受けている。特に、人間の破壊や国家の崩壊をテーマに取り上げ、悲劇的な宿命や社会の運命に巻き込まれた登場人物の、外的諸事情と内面の情念や性に関する葛藤、すなわち<うれひ>を追求したものといえよう。当時、日本の若者の目は欧米文化に向けられた。とくに文芸活動としては、西洋の戯曲を日本の風土に翻案する実験が多く試みられたが、藤村もそうした作家のひとりであった。彼はシェクスピアに憧憬の念を抱き、その戯曲から多くの思想や技法を学んだ。本発表では、『朱門のうれひ』と『ハムレット』をその類似の諸相において検討する。

『英米文化』投稿締め切り迫る

『英米文化』第32号の投稿締め切りは10月31日です。投稿規定は『英米文化』第31号の187頁をご覧ください。新入会員で投稿規定が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送りします。その他投稿に関してのご質問は学術担当の田邊治子理事(Eメール: tanabeh@dh.catv.ne.jp Tel: 03-3722-0235 Fax: 03-3721-9325)までお寄せ下さい。

シンポジウム実行委員会からのお知らせ

明年3月9日に開催される英米文化学会シンポジウムの時程が決まりました。

10:00-10:30 開会・オリエンテーション
10:30-11:30 基調講演
11:30-12:00 質疑応答
12:00-13:00 昼会
13:00-15:00 パネルディスカッション
15:00-15:30 休憩時間
15:30-17:00 ワークショップ
17:00-17:30 全体会・閉会
18:00-20:00 懇親会

当日は、教育現場からの生の声も聞けるようにと、現役の生徒、学生の参加も計画しています。今後は、ホームページ、会報にてお知らせしてゆく予定です。

開催日には、受付、会場整理などにお手伝いいただける会員を募ります。onomasa@tky.3web.ne.jp まで、ご連絡ください。

シンポジウム企画委員会委員長 小野 昌

事務局からのお知らせ

学会忘年会

11月17日第107回例会の後に、学会忘年会を開催いたします。例会にご出席になれなかった会員も、ご参加ください。忘年会のみに参加の場合は事前に学会事務局までご連絡をください。午後6時より、フランス料理・ワイン専門店ワインベルク2(神田和泉屋直営)を貸切。会費4,000円は当日徴収いたします。

<開催場所の詳細>

住所 千代田区神田小川町2-10 新山城ビルB1 電話 03-5259-0022

ホームページ www.kanda-izumiya.com

地下鉄ご利用の場合は、上記の3本の地下鉄は、すべて同じ地下道でつながっていますので、地下鉄を歩いて小川町交差点に出る「B5出口」の階段を登って下さい。スポーツ用品店の並ぶ靖国通りに出ます。地上に出ると「PRONT」少し先に「ドトールコーヒー」があります。この先の角を右折、10メートルで突き当たりにあります。地下鉄出口B5から徒歩1分の距離です。

学会出版プロジェクト

マルカム・ブラッドベリ Malcolm Bradbury の **The Modern British Novel 1878-2001** の翻訳プロジェクトへの参加者募集

今般は学会による翻訳プロジェクトをスタート致します。マルカム・ブラッドベリの

'The Modern British Novel 1878-2001'の翻訳を、学会の編集にて出版する計画がございます。近世の英国小説についての鋭い洞察と該博な知識に満ちた著者は先般亡くなりましたが、直前までこの仕事を続けた結果、1878年から2001年までを含む著書を残されたものです。先般、アメリカ文学については、アメリカ文学の分科会にてブラッドベリの翻訳が刊行され、上下2巻にて完結しております。今回、学会からこの英国小説についての翻訳を出すのは、学問的にも大きな貢献となるとして、会員の皆様から翻訳者を募り、上下2巻に分けての出版を目指す運びとなりました。

このプロジェクトは、監修予定者の曾村充利（そむらみつとし）理事を中心にして運営される、分科会としての扱いとなりますので、出版時には執筆者負担金が発生する予定ですので、お含みおきください。それ以外の条件としては、600ページを超えるページ数で10章に及び規模のために、最低でも10名の翻訳者が、文体の統一などで緊密に連絡を取る必要があるために、メールにての送受信が可能な会員に限らせていただくことです。

ここに、翻訳プロジェクトへの参加者を募集いたします。申込者が多数予測されますので、希望者には**試訳をご提出いただく**こととなりました。集まり次第選考会を開催して、翻訳者の選定をさせていただきますので、必ずしも、翻訳希望に添えない場合、希望なされた章に当たらないなどの試訳対象は、原本の一部をアップロードしてありますので、<http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/britnovel.html>に直接アクセスしていただきまして、

The Novel No Longer Novel?: 1945-1954 から約2ページ分

または

The Turn of the Novel: 1878-1900 から約2ページ分

のどちらかを翻訳いただきます。次に末尾に添付してあります、CONTENTS から翻訳希望の章の名称をご記入いただき、

(Somura Mitsutoshi) 曾村充利: Anglersomu@aol.com

(Takatori Kiyoshi) 高取清: ktakator@ell.u-bunkyo.ac.jp

のお二人までお送りください（お二人ともウィンドウズです）。マッキントッシュを使用中の会員もおられますので、添付ファイルではなく、直接メールの本文に訳文を貼り付けて送信してください。締め切りは、11月末日となります。

原本が学会事務局に2冊ありますのでご希望の方はお早めにいらしてご購入ください。2000円です。それ以降は、ご自分でご購入ください。

このプロジェクトについてのご質問は、事務局佐藤治夫まで、メールをください。shakey23@tky.3web.ne.jp または shakey23@dh.catv.ne.jp です。

上記の内容をメールにて先に発送済みです。メールが到着していない会員は、登録漏れが考えられますので、佐藤治夫までご連絡ください。

会員の動き

【新入会員】省略

【法人賛助会員】フューテックエレクトロニクス株式会社（担当）佐佐木昭

〒107-0052 港区赤坂4-3-1 ペア赤坂 03-3582-0781

【住所などの変更（新住所などを記載）】省略

*住所などに変更がある場合は

渉外担当吉田（tyoshida@cc.teu.ac.jp）までご連絡ください。

財務からのお知らせ

近年、学会費の納入率が低下致しております。年度内の納入にご協力願います。

なお、納入状況が不明の方は財務（大東）までE-mail(daito@human.ac.jp)にてお尋ね下さい。

学会費 5,000円

郵便振替口座番号：00160-7 611777

加入者名：英米文化学会



大会後の懇親会も盛況でした

研究ガイド 英国公文書館の外部研究員について

英国公文書館(The Public Record Office--PRO)は、日本にいながらにして、カタログを検索することができるようになってきました。検索の結果、目的の情報が運良く見つかった場合は、通常のコピー、CD-ROM、電子メールに添付しての送付を選べます。記録を保存することに大変こだわる英国人に気質がよくあらわれていて、記録のインデックスの閲覧がオンラインでできるのは、我々研究者にとって実にありがたいことです。さらに嬉しいのは、著作権が殆どの場合に英国王室(Crown Copyright)にあるが著作権を主張しない、つまり、自由に論文等で引用できることです。もちろん、出典を明らかにすること、意図的に誤解を与えるような引用をしないなどの基本的な注意事項は示されます。

さて、研究者が困るのは、どのようなファイルを見れば、目的の研究データに到達できるか不明な時でしょう。どうして良いかわからないデータ検索には、PRO に精通した外部研究員 (Independent Researchers) が最適でしょう。PRO の職員ではないのですが、必要としている人が多いのだと思います。PRO のホームページでは、以下のURL で、分野別に登録された外部研究員のリストを見ることができます。

<http://www.pro.gov.uk/research/irlist/default.htm>

例えば、Foreign, Colonial and Dominions Offices Records 探索専門として 39、Maps including Tithe and Valuation Records には 26 の研究者(社)が登録されています。メールアドレスを持っていない研究員もいますので、郵便やファックスにて連絡が取れるのは、今般私は、Arden Enterprises と名乗る会社(?)の外部研究員ハリントン氏 Mr. Duncan Harrington history.research@btinternet.com) にコンタクトを取って、或る作家の第1次世界大戦がらみの事件の記録の調査を依頼しました。彼の場合は料金が、PRO などでの作業実質1時間ごとに 35 英ポンド(他社では40ポンドのものもあった)で、交通費などは実費ということでした。ハリントン氏の料金体系は、メールを引用すると以下のようになっています。

“For reference I would be delighted to assist you with research anywhere in Kent and at the Family Record Centre, Myddelton Street, London (incorporating the General Register Office and various records from the PRO), the British Library Manuscripts Department, the Public Record Office, Ruskin Avenue, Kew, Duchy of Cornwall Record Office and the Principal Probate Registry. Research can be undertaken in other areas by arrangement. My charges are £ 35 per hour together with any out of pocket expenses for travelling at cost (car travel charged at 35p per mile), photocopies, certificates, postage and packing etc. Travelling time will not normally be charged, only the time spent in the Record Office working on your case, the reporting time and where necessary time spent in assessing your case will be included in the fee. It is normally possible to provide transcriptions of complete Early English documents at the rate of £ 7 per 100 words and Latin translations at £ 8 per 100 words of English text.”

丁度、探偵に調査を頼むのと同じです。今回は、最初に着手金を40ポンド先に送りました。実際は、PROに2回行って、一番必要としているデータを見つけてコピーして日本に郵送してくれました。これで40ポンド分でぴったりだったので、調子に乗って他のデータの探索も依頼しました。最終的には、追加分もかなりの成果をもたらしたので、追加として時間分プラスコピー代と郵送料74ポンドを喜んで支払いました。印象としては、かなり誠実に文献探索をしてくれますし、オーバーチャージを少しはするかと思っていましたが、そのような気配もなく、実に真剣に、細かいところまで探索の打ち合わせメールをくれたのが印象に残ります。無駄な探索をして、クライアントの気分を損ねないようにと気を遣ってもらえました。

実際に英国に行って、PROを訪問しての探索にはコツが必要で、なかなかうまく行かないようですが、場合によっては、PROなどで専門的に調査をする人々の経験を使うのも良いことでしょう。

英米文化学会会報 第49号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫（広報担当）

〒224-0028 横浜市都筑区大瀬西3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html>